

[活躍する卒業生]

地元・滋賀で琵琶湖の魅力を全国、世界に届ける

志賀町漁業協同組合・フィッシャーアーキテクト代表

駒井 健也 さん 環境科学部 環境建築デザイン学科 2014年度卒業
環境科学研究科 環境計画学専攻環境意匠研究部門 2016年度修了

琵琶湖と共に生き、湖魚の魅力を発信。

在学中、ガンジス川やベネチアなどを訪れたことをきっかけに「水と共にある暮らし」に惹かれていきました。海外での経験を通して改めて琵琶湖の魅力に気づき、地元滋賀で漁師になる道を選択。毎日のように琵琶湖で漁をし、獲れた魚を地元の人へ届けることに大きなやりがいを感じています。

2020年には琵琶湖の文化を多くの人に発信していきたいという想いから、フィッシャーアーキテクトを設立。マルシェ出店、漁体験などさまざまなイベント活動を行っています。琵琶湖と湖魚の魅力を伝えるを通じて、漁師という仕事の付加価値を高められるよう努めています。

大学での学びとつながりが、自身の仕事を豊かにしてくれた。

大学では、建築・ものづくりを通して環境問題や社会問題を解決する方法論を研究しました。課題を発見し、その中で何をすべきかを有機的に考える視点は、自身の仕事で役立っています。スキルはもちろんですが、大学で先生や生徒同士のつながりができたことも今の仕事に非常に生きています。県内でのショッピングモールでイベントに講師として招いていただいたり、団体に漁業体験に来ていただいたりしました。今後は建築の知識を生かして、漁師をはじめとする地元の人々のために、建物の整備や町の風景作りにも取り組んでいきたいです。



広告デザイナーとして、社会に影響力のある仕事をしたい

株式会社日本経済社 クリエイティブ局第2部

小幡 悠矢 さん 人間文化学部 生活デザイン学科 2022年度卒業

自分のデザインが世に出る喜びを感じます。

デザインの仕事は社会に溢れており、個人事業主の広告から、誰もが目にするような有名企業の大規模広告まで幅広くあります。その中でも、私は社会的影響力の大きな仕事をしたいと思い、広告代理店のデザイナーの仕事を選びました。現在は広告デザイナーとして、新聞、CM、WEB、駅ポスター、冊子、イベントなどいろいろな広告媒体のデザイン・ディレクションをしています。一番やりがいを感じるのは、自分の作ったデザインや企画を普段の生活の中で見かける瞬間。特に、初めて案出してから撮影までを担当したCMが世に出たときは達成感を感じました。

デザインを客観的に見る視点が生きています。

大学時代は、ほとんどの時間を制作室で過ごし課題に取り組みました。課題は「客観的な目線」を重視して評価されます。さらに統計学やマーケティングの授業でデザインを数学的に見る視点も身につきました。私の仕事は商業デザインなので、大衆から評価を得ることが必要です。社会に出る前からこの客観的な目線を持てたことは強みだと思います。デザインするときは、大学で行った課題講評での「可愛いけれど売れるだろうか」という問いを常に意識しています。クライアントへデザインを提案するときも根拠を持ってメリットを伝えることができるので、学びの成果を感じます。



憧れの設計職で、身の回りの欠かせないものを社会へ

株式会社イトーキ 生産本部 第2開発設計部 第1開発設計室

山口 美寿穂 さん 工学部 機械システム工学科 2018年度卒業

在学中のロボット設計が、現在の職に就ききっかけになりました。

3年生のときに、自分が考案したロボットのアイデアが採用され、実際に授業内で製作したことが、設計の仕事を考え始めたきっかけです。班のメンバーで材料や寸法を相談し、時には失敗しながら、アイデアを形にしていけることに楽しさを覚えました。現在は、オフィスで使用するキャビネットやロッカーなどの収納製品の設計を担当しています。図面を書くだけでなく、自社工場・外注先への影響等も考慮し、多くの人とコミュニケーションを取りながら仕事をしています。実際のオフィスやドラマのセットなどで自分が設計に携わった製品を見ると、とても嬉しいです。

大学祭実行委員会の活動で培った企画力を社内で発揮しています。

現在は通常業務のほかに、女性活躍推進チームなど社内さまざまな有志活動に参加しています。特に工場のアンバサダーとして、広報部と協力し積極的に活動中です。具体的には、職人の方へのインタビューや工場現場の取材を行い、それらの内容を記事にまとめ社内に向けて発信しています。そういった活動での企画力は、学生時代に大学祭実行委員会に所属していた経験が生きています。学生自らが率先して手作りする大学祭だったため、企画力を始めとしさまざまな力が身につきました。今後も、良い意味で周囲を巻き込み、発信を続けていきたいです。



ドクターカーのナースとして、病院前診療に尽くす

社会福祉法人恩賜財団 済生会滋賀県病院 看護部 救急外来

巻藤 智 さん 人間看護学部 人間看護学科 2015年度卒業

病院前診療は救急対応の要です。

看護師である祖母の話を聞くうちに、人に寄り添える仕事である看護師を目指すようになりました。現在は済生会滋賀県病院の救急外来スタッフとして働いており、その中でもドクターカーなど病院前診療に携わっています。主な業務は救急搬送された患者さんの初期対応。医師の指示のもと検査や病棟への案内などを行います。緊急性の高い場合は早い段階から医療を提供するため、医師、看護師、救急救命士のチームで現場に向かい対応にあたります。現在はドクターカーに乗車していますが、いずれはドクターヘリのフライトナースになりたいと思っています。

実習で学んだ患者さんとの向き合い方。

在学中の実習では、声のかけ方などのコミュニケーションの基礎を学びました。患者さん一人にじっくり関われるのは実習の機会だからこそ。実際の業務では担当する患者さんの数も責任も増え、その人の訴えや想いに時間をかけて向き合うことが難しくなります。そんなときこそ実習や授業で学んだ基本に立ち返り、「疾患にばかり目を向けるのではなく、その人を見るのだ」という言葉を意識するようにしています。忙しい職場で疲弊するときもありますが、患者さんからの感謝の言葉で頑張ろうと思えます。また、担当した患者さんが元気に退院されたとき聞いたときは、大きな達成感を感じます。

